

# 教えの庭から

NHK朝ドラ「らんまん」の主人公・植物学者の牧野富太郎博士は、植物愛ひとすじで、「植物は人間がいなくても、少しも構わずに生活することができが、人間は植物がなくては一日も生活することができない。人間は植物に対しておじぎしなければならぬ立場にある。人間に必要なくべからざる衣食住は、すべて植物によって授けられている。人間は植物に感謝の真心を捧げなくてはならない」(牧野富太郎自伝、「草木とともに」と語られています。

博士は、94歳で亡くなるまで、植物を仏様だと拝む毎日の生活だったようです。「草木に愛を持つことによって人間愛を養うことが出来る」という信念

## 自然の声に耳を澄ませる

出雲市斐川町・仁照寺住職 江角 弘道

を持ち、もし自分が「日蓮 仏教の「山川草木国土悉ほどの偉ら物であつたな 皆成仏」とは、草木はもとら、きつと私は草木を本尊 より、山も川も、この大地とする宗教を樹立して見せ も、すべてに仏性(宇宙の生命体)が宿っているとい博士の人生図鑑」、平凡社 う思想です。



挿絵 平尾恵郷

と述べられています。牧野植物教の教祖になっていたかもしれぬ言です。同本には、草に座して祈る姿の写真があります。

私がお説法に聞かせる、山を見ても仏さまのお姿である雑草を見ると、すぐに駆除したくなります。草の声を聞き、すべての草を平等に扱ふことは、限りなく難しきことです。それを実行された牧野博士をとても尊敬いたします。

「谷川のせせらぎは仏さまのお説法だ。山の色は仏さまの清らかなお姿だ。夜通草という草はない、必ず名し聞かせるせせらぎは仏さまの説かれた経典である」というような内容の詩があります。彼は谷川の音に仏様の声を聞いたのです。川のせせらぎを聞いても仏さまのお説法に聞かせる、山を見ても仏さまのお姿である雑草を見ると、すぐに駆除したくなります。草の声を聞き、すべての草を平等に扱ふことは、限りなく難しきことです。それを実行された牧野博士をとても尊敬いたします。

「雑草という草はない。それぞれに名前がある」という名言は、昭和天皇のお言葉だと思っていました。が、インターネットで調べてみると、牧野博士が昭和天皇に語ったとのことでした。入江侍従長のエッセーに書かれているそうです。

5月11日放送の「らんまん」の中では、採集した草の標本を取り戻す場面、一雑草という草はない、必ず名し聞かせるせせらぎは仏さまの持て生まれた唯一無二の名がある」という萬太郎牧野博士の発言があり、この名言との関連を思いま